

# 日米医学医療交流財団 留学助成

## A 項 近況報告書 (2012年度助成者)

作成 2012年 11月 2日

氏名	山田雅晶
研修先機関名	Cleveland Clinic Foundation Internal Medicine Residency Program
<p>晩秋の候、先生方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。朝晩の冷え込みは、日増しに強まり、早朝の出勤時には身震いしながら通勤しております。北陸地方出身(石川県金沢市)で寒さや雪には慣れているとはいえ、より高緯度に位置するクリーブランドの冬将軍の到来に冬支度を急いでいる所です。</p> <p>クリーブランドはアメリカオハイオ州内の州都コロンバスに次ぐ第二の地方都市であります。米国北東部に位置し、五大湖の一つであるエリー湖に面しています。そのため、近隣のデトロイトなどと並び、重工業で栄えた都市ですが、近年の自動車産業その他の衰退に伴い都市の経済規模も縮小しております。現在では、私自身の研修先であるCleveland Clinic FoundationやCase Western Reserve University Hospitalを中心としたヘルスケア産業が市の経済活動の重要な一翼を担っており、雇用を生み出しているといっても過言ではありません。</p> <p>Cleveland Clinicは1921年に4人の創設者により開業されました。患者ケア、医学研究、医学教育、ならびにより良い病院環境というモットーの元発展を続け、現在ではアメリカ国内に留まらず、世界中から患者が治療を受けに訪れる病院となっております。現に、U. S. News &amp; World Reportの全米病院ランキングでは、心臓病治療分野で長年に渡り一位を獲得していることでも有名です。初の心臓バイパス手術が実施された事もその一端を象徴しております。また、それ以外の分野でも、優れた業績も多く、市中病院としてはMayo Clinicと並び、他の大学(関連)病院と共にランキングの上位に名を連ねております。そのため、多くの専門診療科を抱える大病院となっております。総合内科病棟での研修では、多種多様な専門科、専門職種と連携をとりながら、個々の患者に適切と思われるケアを提供して参りました。</p> <p>内科研修については、3年間のプログラムとなります。4週間を基本単位とし、1年間を13ブロックに分けて、総合内科病棟、特殊病棟(循環器内科病棟、消化器/肝臓病棟、神経内科病棟など)に加え、各科診療科ローテーションも組み合わせられ、満遍なく経験を積む事ができるように配慮されています。4ブロックを終了した現時点では、夜勤専従ナイトフロート、精神科コンサルテーション/緩和ケア病棟、外来診療、ならびに総合内科病棟とローテートしてきました。直近の総合内科病棟では患者入退院のサイクルが早く、4週間という短期間とはいえ、46名の入院患者の担当を勤めることとなりました。チームの内訳は、1年目内科研修医(インターン)、2 or 3年目内科研修医(シニアレジデント)と指導医の3人1組が基本となり、そこに医学生が組み込まれて時に4人チームとなります。入院日数も短く、またサマリ等の書類仕事も多いなか、それを補うような形で座学の時間が保証されるなど、効率よく学んでいける環境が整っています。全ての指導医が医学教育に関して熱心という訳ではないですが、多くの指導医が自身の時間を費やしてベッドサイドティーチングを提供するなど、限られた研修期間・時間を最大限に生かせるような配慮が多く見受けられました。また、医学生もカルテ記載や看護師を含めた他職種との連携などチームの一員として機能することを要求されるなど、近年日本でも認知度を増している屋根瓦式のトレーニングスタイルが自然と行われていました。日本での経験も踏まえると、研修内容にそれほど大きな隔りがある訳ではなく、似通った部分も散見されました。</p> <p>この場をお借りして、自分自身の研修を振り返ると、最初の数ヶ月は新天地での生活環境に慣れることや病院独自のシステムを覚える事に大部分の時間を費やすこととなり、また、保険制度を含めた社会医療保障の違いなどに悩まされる事も多かったです。それらに加え、言語の壁もあることから、日本にて内科研修を修了した医師としては不満の残る内容でした。休暇に入る前の総合内科病棟勤務では、日を経るに従い、チームの一員として機能していることを実感できる瞬間が以前に比べ多くなったことは辛い日々の中での光明でした。今後の課題としては、通常の内科研修を充実させる事に加え、現病院に溢れる臨床研究に携わる機会を活かし、今後のキャリア形成につながる3年間に是非ともしたいと強く思っております。また、日米医学医療交流財団の選考会で知り合った同期フェローの方々と連絡を取り合う中で自身の研修に生かせる情報も得られ、貴重なつながりの場であったと感じております。</p> <p>最後になりましたが、日本国内以上に米国での生活セットアップは物入りです。そんな中で同財団の助成は本当に心強く、助かっております。事実、研修医割引が適用されるとは言え、安くはない米国内科学会の入会費を早速助成から捻出させて頂きました。今後も、自身の研修を有意義なものに出来るような使途を中心に活用していきたいと考えております。簡単ではございますが、以上をもって留学助成の御礼と近況報告にかえさせて頂きたいと思っております。</p>	